

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 研究開発機器等設備整備充実費（単建）（林政）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 501 千円 （前年度予算額：539 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	539	0	0	0	0	0	0	0	539
要求額	501	0	0	0	0	0	0	0	501
決定額	501	0	0	0	0	0	0	0	501

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究に必要なとなる研究関連機器や施設の充実、老朽化や修繕不可能となった機器の更新を行う。

(2) 事業内容

○作業用実体顕微鏡（新規） 1台

【要求理由】

次年度から実施予定の新規研究課題において、キノコバエ類の解剖等を頻繁に行う予定のため、調達する必要がある。キノコバエ類は体サイズが非常に小さく、種同定等を行う目的で解剖するためには、最大50倍程度まで拡大観察しながら精密ピンセットの使用が可能な作動距離100mm以上の作業性の良い実体顕微鏡を用いる必要がある。

○簡易レーザ測量用端末（新規） 1台

【要求理由】

次年度から実施予定の新規研究課題において、森林内における立木の形状や地形の計測を頻繁に行う予定のため、調達する必要がある。調達機器は、従来型の機器に比べ簡易に多点計測を行うことができるなど効率的な測定が可能であり、円滑な研究の推進のために当該機器を用いる必要がある。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内産業に役立つ研究開発と質の高い技術支援を提供するため、先端的研究に必要なとなる研究機器の購入であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	501	作業用実体顕微鏡 341千円 簡易レーザー測量用端末 160千円
合計	501	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実、老朽化や修繕不可能となった機器の更新を行い、研究の効率化や機器の老朽化に伴う研究業務の停滞防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化・合理化を図るための機器整備等を行う事業であるため、指標の設定は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	簡易地盤支持力試験機、ビーズ破砕機を購入した。 老朽化した機器の更新により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。
令和 3 年度	ノンフロンフリーザー付き薬用保冷庫、電気低温恒湿庫を購入した。 老朽化した機器の更新により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	ブロックせん断試験治具を購入した。 これまでの代替器具から専用器具が使用できるようになり、本試験を精度高く効率的に実施できるようになった。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	研究の効率化や機器の老朽化に伴う研究業務の停滞防止を図り、企業等が求める研究を推進するために、研究機器や施設の整備は必須の事業である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に推進できており、事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実に関しては、必要性等を総合的に判断し優先順位を付けたうえで、緊急性を加味し、効率的な整備となるよう運用している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 現在使用している研究機器は、購入してからの年数が長く老朽化しているものが多いため、更新が必要なものが年々増加する。また、高額な研究機器が老朽化や修繕不可能となった場合にも予算が不足することが課題である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究機器の整備が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】